



アマチュアオーケストラ

新交響楽団第230回演奏会

The New Symphony Orchestra – 230th Concert

指揮：矢崎 彦太郎

YAZAKI Hikotaro, conductor

ラヴェル

古風なメヌエット

Maurice RAVEL (1875-1937) : Menuet Antique, 1929 (Orchestra Version)

「ダフニスとクロエ」第2組曲

Maurice RAVEL : Daphnis et Chloé, Suite No. 2, 1913

マーラー

交響曲第4番ト長調

Gustav MAHLER (1860-1911) : Symphony No. 4 in G major, 1900

ソプラノ独唱：コロンえりか

Erika COLON, Soprano

Design: IMAO Keisuke

池袋駅西口 Ikebukuro Station, West Exit

2015年7月26日(日) 東京芸術劇場コンサートホール 14:00 開演 13:00 開場

Sunday, July 26, 2015, 2:00pm (doors open at 1:00pm) at Tokyo Metropolitan Theatre, Concert Hall

入場料 S席：¥3,000 A席：¥2,500 B席：¥1,500 (全席指定)

88 ペアチケット (お二人様で合計88 歳以上のお客様は合計金額から 1,000 円を割引させていただきます。下記コンサートイメージのみ取り扱い)

チケットのお申し込み・お問い合わせ：コンサートイメージ03 (3 2 3 5) 3 7 7 7 *10:00 ~ 18:00 (日曜・祝日を除く)

チケットのお申し込み：チケットぴあ：0570 (02) 9999 <http://t.pia.jp/>

東京芸術劇場ボックスオフィス：0570 (010) 296 *10:00 ~ 19:00 (休館日を除く)

(PC) <http://www.geigeki.jp/t/> (携帯) <http://www.geigeki/i/t/>

0570 で始まる電話番号は一部携帯電話・PHS・IP 電話では受付ができません。

*点字プログラムを若干部用意しております。入口でお渡しいたしますのでお申し付けください。

*おそれいりますが未就学児のご入場はお断りさせていただきます。託児サービスをご利用ください (予約制・詳細は裏面)。

新交響楽団のホームページ <http://www.shinkyo.com/> 演奏会案内や曲目の解説、これまでの活動記録などがご覧いただけます。

矢崎彦太郎＝新交響楽団3回目の共演

パリを拠点に世界中で活躍する矢崎彦太郎氏を指揮に迎え、マーラーのソプラノ独唱を伴った交響曲第4番と、ラヴェルの管弦楽作品2曲を演奏します。氏の柔かいタクトからは色彩豊かな音が溢れ、異国の風を感じるような魅力があります。ソプラノには、演奏活動のほかにベネズエラ大使夫人としてエル・システム活動も行うコロネリか氏を迎えます。

マーラー交響曲第4番～天上の音楽

マーラーはウィーンで活躍した作曲家で、主に交響曲と歌曲を作曲しました。番号の付いていない「大地の歌」を含めて10曲の交響曲を残しましたが(第10番は未完)、そのうち5曲に声楽が使われています。他の純器楽の交響曲にも自作の歌曲と関連を持たせるなど、歌にこだわった作曲家でした。

当時マーラーは指揮者として高名で、夏休みに集中して作曲活動を行っていました。1897年ウィーン宮廷歌劇場監督に、1898年にはウィーン・フィルの定期演奏会指揮者に就任しました。交響曲第4番を作曲したのは丁度この頃でした。

ユダヤ人であったマーラーは、歌劇場監督になるためカトリックに改宗しました。復活信仰を持っており、「子供の不思議な角笛」(ドイツの民衆歌謡の詩集)から「天上の生活」を題材にしています。トロンボーンなしの小ぶりな編成でモーツァルトのような面もあり、時には激しく、また牧歌的に、最後は美しいソプラノで天国が歌われます。

ラヴェル～管弦楽の魔術師

前半は、フランスの代表的な作曲家で管弦楽の魔術師とも呼ばれるラヴェルの管弦楽作品を2曲演奏します。

「ダフニスとクロエ」は、当時パリで成功を取っていたロシア・バレエ団の主宰者であるゲルギエフから1909年に依頼を受けて作曲されました。この頃ラヴェルは、サン＝サーンスが設立した国民音楽協会を脱退し、独立音楽協会を創設し現代的な新しい音楽を目指していました。

お話は古代ギリシャ、山羊に育てられたダフニスと羊に育てられたクロエがそれぞれ山羊飼いや羊飼いに拾われて、成長して恋に落ち、実は高貴な生まれで最後はめでたく結ばれるという恋物語です。ゲルギエフは合唱まで付いてバレエ的でないと気に入らず、今ではコンサートで演奏される機会の方が多のですが、ラヴェルの最高傑作と言っても過言ではないでしょう。全曲だと1時間近くかかりますが、ラヴェルはこれから2つの組曲を作りました。特に第2組曲は演奏機会も多く、吹奏楽でも有名な人気のある曲です。

「古風なメヌエット」は、ラヴェルが20歳の時にピアノ曲として作られましたが、管弦楽に自ら編曲したのはその34年後で、ラヴェルの最後の管弦楽作品となりました。古典派の様式であっても、とても斬新で洒落た曲です。

どうぞお楽しみに!(H.O.)

今後の演奏会予定

<第231回演奏会>

2015年10月12日(月祝)14時 東京芸術劇場

指揮 寺岡清高

曲目 ニコライ/「ウィンザーの陽気な女房たち」序曲

ベートーヴェン/交響曲第1番

シュミット/交響曲第4番

<第232回演奏会>

2016年1月24日(日)14時 東京芸術劇場

指揮 湯浅卓雄

<第233回演奏会>

2016年4月10日(日)14時 東京芸術劇場

指揮 飯守泰次郎

新交響楽団のプロフィール

新交響楽団は1956年に創立されたアマチュアオーケストラです。音楽監督・故芥川也寸志の指導のもとに旧ソ連演奏旅行、ストラヴィンスキー・バレエ三部作一挙上演、10年におよぶ日本の交響作品展(1976年にサントリー音楽賞を受賞)、ショスタコーヴィチ交響曲第4番日本初演など意欲的な活動を行ってきました。

またマーラーの交響曲全曲シリーズ(故山田一雄指揮、1979～90)、ベルリン芸術週間への招聘・邦人作品演奏(故石井眞木指揮、1993)、伊福部昭米寿記念演奏会(2002)、石井眞木遺作「幻影と死」完全版初演(高関健指揮、2004)、ワーグナー「トリスタンとイゾルデ」演奏会形式公演(飯守泰次郎指揮、2006)など、幅広い活動を積極的に展開しています。

維持会のご案内 ～良いお席を安く～

新交響楽団維持会は、新響の演奏活動にご賛同いただき支援して下さる方々の組織です。集まった会費は、楽器購入や演奏企画に活用しています。会費は一口10,000円で、2年間有効の5枚綴りの回数券(どの演奏会でも一度に何枚でも使用可能)を差し上げます。良いS席を優先的に確保いたしますので当日その中からお選びいただけます。お申込みは郵便振替にて直接会費をお振込みください。郵便振替口座：00130-0-28074「新交響楽団維持会」

団員を募集しています

音楽監督の故芥川也寸志が長年にわたって主張し続けてきた「音楽はみんなのもの」を実践し、常に新しい視点を持って活動していくために、新しい力が必要です。何はともあれ、ぜひ一度練習をご覧ください。見学・オーディション等のお問い合わせはE-mail: shinkyo@music.nifty.jp

練習は毎週土曜日午後6時～9時、東京芸術劇場(池袋)、クラシック・スペース☆100(大久保)他にて。

演奏会当日の託児サービスのご案内

東京芸術劇場でのご鑑賞の際には、キッズルームをご利用いただけます。お問い合わせ：東京芸術劇場 電話03-5391-2111